



## 各 位

NPO放送批評懇談会 (担当：久野／中島)  
Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

### 第47回ギャラクシー賞贈賞式 取材・報道のお願い

平素より当会にはご理解、ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

さて、来る6月3日、ギャラクシー賞贈賞式を行い、47年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」のテレビ大賞、ラジオ大賞、CM大賞、報道活動大賞を決定・表彰いたします。

当日は個人賞、特別賞、DJパーソナリティ賞も表彰されます。

また、第1回志賀信夫賞の贈賞、視聴者参加型のギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリの贈賞(宴で実施)もごぞいます。

ぜひご出席賜り、ご取材、ご紹介くださいますようご案内申し上げます。

■日時 2010年6月3日(木曜日) 贈賞式17:00~18:30

取材受付開始15:45、取材開場16:00、開演17:00

■会場 ウェスティンホテル東京<ギャラクシールーム>

東京都目黒区三田1-4-1(恵比寿ガーデンプレイス内) 〒153-8580 Tel. 03. 5423. 7000

■出席予定

笑福亭鶴瓶さん(テレビ部門個人賞、TBS「A-Studio」CBC「スジナシ」NHK「鶴瓶の家族に乾杯」  
テレビ大阪「きらきらアフロ」の出演)

由美かおるさん(第1回志賀信夫賞・澤田隆治さんお祝い)

I MALUさん(テレビ部門個人賞・鶴瓶さんの祝い)

テレビ、ラジオ、CM、報道活動部門入賞作品関係者の皆さん ほか調整中

各部門の入賞作品は別紙一覧をご参照ください

各部門とも、入賞作品の中から大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、贈賞式で発表します

取材要領は別紙をご覧ください。

NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

〒160-0022 新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510 [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp) <http://www.houkon.jp>

本件担当=中島好登、久野明



## 第47回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2010年6月3日(木曜日)

ウェスティンホテル東京「ギャラクシールーム」

取材受付15:45、取材開場16:00、開演17:00

### 取材要領

■ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、以下の申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお断りする場合があります。

■スペースの都合により1紙/誌、1番組につき、1チームでお願いします。

■撮影希望のクルーは、15:45までに取材受付にご集合ください。(カメラ位置抽選。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。)

### ギャラクシー賞贈賞式タイムスケジュール

17:00 開会、主催者挨拶

17:04 ギャラクシー賞CM部門 「選奨」「優秀賞」「大賞」贈賞

17:17 ギャラクシー賞ラジオ部門 「DJパーソナリティ賞」「選奨」「優秀賞」「大賞」贈賞

17:33 ギャラクシー賞報道活動部門 「選奨」「優秀賞」「大賞」贈賞

17:44 第1回志賀信夫賞贈賞

17:49 ギャラクシー賞テレビ部門 「特別賞」「個人賞」贈賞

18:03 ギャラクシー賞テレビ部門 「選奨」「優秀賞」「大賞」贈賞

## 第47回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

会社名	
媒体名/番組名	
住所 〒	
担当者	Tel.
Email	Fax.
取材予定人数	スチールカメラ    あり    なし テレビカメラ      あり    なし

# 第47回ギャラクシー賞入賞作品一覧

[ 2009年4月1日 ~ 2010年3月31日 ]

## ◎志賀信夫賞

澤田隆治

## ◎テレビ部門

- ※ SBSスペシャル「日本兵サイカイタイゾーの真実～写真の裏に残した言葉」  
静岡放送
- ※ 映像'09「DNA鑑定の呪縛」  
毎日放送
- ※ NNNドキュメント'09「塙の外で見つけた居場所～罪を犯した障害者たち」  
長崎国際テレビ
- ※ 土に生きる～ダム水没予定地・ある農民の手記  
テレビ熊本
- ※ シリーズ激動の昭和「最後の赤紙配達人～悲劇の“召集令状”64年目の真実」  
TBSテレビ ドリマックステレビジョン
- ※ NHKスペシャル「日本海軍 400時間の証言」  
日本放送協会
- ※ 桑田佳祐の音楽寅さん  
フジテレビジョン
- ※ ETV特集「死刑囚 永山則夫～獄中28年間の対話」  
日本放送協会
- ※ NNNドキュメント'09「ひだまり～今治大浜1丁目・6年の記録」  
南海放送
- ※ ハイビジョン特集「『津軽』生誕100年 太宰治と故郷」  
日本放送協会 テレコムスタッフ
- ※ 深夜食堂  
「深夜食堂」製作委員会
- ※ HTBSスペシャルドラマ「ミエルヒ」  
北海道テレビ放送
- ※ 日曜劇場「JIN—仁—」  
TBSテレビ
- ※ カミングアウトバラエティ！秘密のケンミンSHOW「2010年今年もよろしく友愛スペシャル」  
読売テレビ放送 ハウフルス

### 特別賞

ETV特集「シリーズ 日本と朝鮮半島2000年」  
日本放送協会

### 個人賞

笑福亭鶴瓶

「A-Studio」(TBS)「きらきらアフロ」(テレビ大阪)「スジナシ」(CBC)「鶴瓶の家族に乾杯」(NHK)の出演

## ◎報道活動部門

- ※ NEWSゆう+「追及！終わらない年金問題」  
朝日放送
- ※ 上伊那の戦争遺構シリーズ  
伊那ケーブルテレビジョン
- ※ 関西発 いのちのラジオ 災害への備え「わかってはいるけれど…」を超えるために  
AMラジオ災害問題協議会 (NHK大阪放送局 朝日放送 毎日放送 ラジオ大阪 ラジオ関西 KBS京都 和歌山放送)
- ※ ナマ・イキVOICE～オンナたちの小さな挑戦・20年  
鹿児島テレビ放送
- ※ 聴覚障害偽装事件における一連の報道  
札幌テレビ放送
- ※ 通年企画「議会ウォッチ」  
北海道テレビ放送

## ◎第4回マイベストTV賞グランプリ

日曜劇場「JIN—仁—」

TBSテレビ

## ◎ラジオ部門

- ※ 上泉雄一のええなあ！  
毎日放送
- ※ 太宰治生誕100年記念 朗読ラジオ劇「走れメロス」  
エフエム青森
- ※ ～JK RADIO～TOKYO UNITED  
J-WAVE
- ※ SCHOOL OF LOCK！  
エフエム東京
- ※ 伊勢湾台風50年～あの日が教えてくれること  
中部日本放送
- ※ 3年7組栗原清志～青い森での青春遍歴  
エフエム東京
- ※ FMシアター「心にナイフをしのばせて」  
日本放送協会
- ※ 抑留兵、卒寿を生きる～異国の丘に遺す最後の願い  
朝日放送

### DJパーソナリティ賞

やのひろみ

「PALPALワイド 本気？ラジ！」(南海放送) パーソナリティとして

## ◎CM部門

- ※ RKB毎日放送 RKBラジオ シリーズ「夫婦篇」  
RKB毎日放送/電通九州/パイロン
- ※ 江崎グリコOTONA GLICOアーモンドプレミオ/バンホーテンディアカカオ シリーズ「兄妹の今(兄の想い篇)」「7ライト篇」  
江崎グリコ/シンガタ 電通関西支社/東北新社
- ※ ACジャパン 地域キャンペーン「モラルの低下にサイレンを篇」  
ACジャパン/電通/葵プロモーション
- ※ サントリーホールディングス BOSS食後の余韻 シリーズ「食後の出来事(議員)」「食後の出来事(庭師)」  
サントリーホールディングス/シンガタ ワンスカイ 電通/ギークビジュアルズ
- ※ 三立製菓 チョコバット「ギリギリチョコ」  
三立製菓/電通東日本/SDTエンタープライズ
- ※ 資生堂 UNO フォグバー シリーズ「平成遣欧使節団篇」「テニス篇」「4人で歩いている時篇」「タクシー篇」  
資生堂/シンガタ 電通 トレードマーク/スプーン
- ※ 西友 I LOVE KYキャンペーン「言わなきゃよかった篇」  
西友/MOMENTUM JAPAN/TYOプロダクションズ 青山クリエイティブスタジオ
- ※ ソフトバンクモバイル 企業 白戸家シリーズ「歌番組篇」「サーフィン篇」「テカストラップ篇」「博多弁篇」  
ソフトバンクモバイル/シンガタ 電通/ギークビジュアルズ
- ※ 高橋書店 手帳「公転する人類」  
高橋書店/電通/エンジンフィルム
- ※ 中京テレビ放送 中京テレビ40thテレビCM「テレビのチカラ篇」  
中京テレビ放送/中京ビデオセンター
- ※ トステム インプラス シリーズ「窓について篇」「家の雰囲気・断熱篇」「家の雰囲気・防音篇」「エコポイント篇」  
トステム/アサツーディ・ケイ TUGBOAT/パドル
- ※ 郵便事業 平成22年用年賀はがき シリーズ「気づく(小栗さん・栄倉さん・寺尾さん)」「贈る(小栗さん)」「受け取る(小栗さん)」  
郵便事業/電通/東北新社
- ※ ワコール LALAN朝の谷間、ながもち、リボンブラ「リボンブラ篇」  
ワコール/ドラゴン東京

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨10本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月3日(木)開催『第47回ギャラクシー賞贈賞式』で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。

詳しい結果は6月5日(土)発売の「GALAC」2010年7月号に掲載いたしますので、ご覧ください



# ギャラクシー賞概要

## ◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位で、今年で第47回（2009年度）。

ギャラクシーの名は、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そしてトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって考案された。天の川、銀河の訳のほか、佳人・オ子の華やかな群れという意味を持ち、放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして選ばれた。

## ◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は47年を経た現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC/ぎゃらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

## ◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し、それに審査員の推薦作品を加えて選考し、年間賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。

## ◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。表彰式は、毎年5月末～6月初旬に行われる。受賞者には、銀河をイメージしたクリスタルのトロフィーと表彰状が授与される。



# 放送批評懇談会 第1回志賀信夫賞 澤田隆治

## 〈志賀賞選考委員会〉

委員長 音好宏

選考委員 小田桐誠 隈部紀生 上滝徹也 藤田真文

このたび放送批評懇談会では、志賀信夫前理事長の永年にわたる放送批評活動の功績を記念して「志賀信夫賞」を設けることとなりました。広く放送文化の発展に貢献した個人を顕彰することが目的です。番組制作にとどまらず、放送局やプロダクションの経営、番組制作への諸々の支援、放送メディアや視聴者に関する研究・調査、批評活動などを対象としています。

第1回の選考にあたっては、当会の正会員から推薦を募り、選考委員会（理事会で選任された5名の委員で構成）が、推薦された候補者の中から受賞者を決定しました。

今回、推薦された候補者は22名。選考委員会で各候補者について討議を重ねた結果、澤田隆治氏が全員一致で第1回受賞者となりました。

澤田隆治氏は1955年に朝日放送に入社。60年代に「てなもんや三度笠」などで公開コメディを演出、80年代には「花王名人劇場」などで漫才の再生をプロデュースしました。これらのライブ感にあふれる笑いの創造と芸人の育成は、テレビ固有の文化を構築する業績として高く評価されます。この間、「ズームイン!!朝!」で列島情報ワイドをスタートさせたことも、テレビ史に記録される業績といえます。

他方で東阪企画の設立（75年）以来、テレビ制作プロダクションの組織化に力を注ぎ、全日本テレビ番組製作社連盟（ATP、86年）を発展させ、日本映像事業協同組合（94年、現日本映像事業協会）を設立しました。そして今も、テレビ制作者の育成、地位の向上、互助などに、やむとところのない情熱を傾けています。また、イベント制作プロダクションを設立（87年）し、今日の喫緊の課題ともいえるコミュニティ文化の活性化を各地に展開しているのも特筆に値します。

テレビ番組の企画・演出・プロデュース、テレビ制作者の組織化と地位の向上、ローカル放送の基盤となる地域文化の活性化等々、澤田隆治氏の多岐にわたる情熱ほど、「志賀信夫賞」にふさわしい放送への貢献はありません。

## 〈澤田隆治プロフィール〉

さわだ・たかはる 株式会社東阪企画会長。株式会社テレビランド代表取締役社長。株式会社夕留スタジオ代表取締役社長。日本映像事業協会会長。笑いと健康学会会長。放送芸術学院教育顧問

1933年大阪・吹田市生まれ。京城で育ち、終戦で引き揚げ。55年神戸大学文学部卒業、朝日放送入社。60年代に「てなもんや三度笠」「スチャラカ社員」など大阪発の公開コメディ番組を演出、大当たりを取る。75年(株)東阪企画を設立し代表取締役社長に。「ズームイン!!朝!」「花王名人劇場」を手がける。演出・制作としてタイトルに名前が出たテレビ番組は1万本超。イベントプロデュースや喜劇の舞台演出も多数。92年まで、全日本テレビ番組製作社連盟理事長を3期務め、現在は顧問。94年日本映像事業協同組合（現・日本映像事業協会）を設立。58年度民放祭「漫才教室」で娯楽番組部門優勝。85年放送文化基金賞個人賞受賞。99年大阪市文化功労賞受賞。2002年大阪府知事賞表彰。



「志賀信夫賞」の新設について

■放送批評懇談会が2013年に設立50周年を迎えるに先立ち、会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア志賀信夫氏（現名誉会長）の長年にわたる放送界への功績を記念して、志賀信夫賞を新設することとしました。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰します。したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で近年大きな功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図があります。

■志賀信夫 しが・のぶお／放送評論家。1929（昭和4）年福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会理事、78年同理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」（源流社）、「BS/CS衛星放送新時代」（電波新聞社）、「映像の先駆者125人の肖像」（NHK出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を30年にわたり出版。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



# 第47回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2009年度の傾向と選考経過

## ■テレビ部門■

テレビ部門委員長 藤久ミネ 副委員長 石井 彰  
選奨委員 石橋さや夏 岩根彰子 川喜田尚 河野尚行 古賀靖典 佐藤由子  
隅井孝雄 田中早苗 中村正敏 原 真 藤田真文

2009年度ギャラクシー賞テレビ部門への応募番組数は、上期102本、下期111本、計213本で、これに毎月の選考会で選ぶ月間賞作品46本を加えた259本のなかから14本の入賞作を選ぶという大仕事になった。入賞作品を紹介する。

「死刑囚 永山則夫」は永山が元妻・和美さんとの出会いによって生きる意味に目覚めたとき、再度の死刑宣言を受けるといふ重い作品だった。同様のテーマは「日本兵サカイタイゾーの真実」にも流れる。隠者のように戦後の人生を抹殺し、虜囚の辱めに殉じたサカイ。ドキュメンタリー番組の正道に、「文学的確かさ」とでも呼びたい表現性を加味した二作品だ。

「DNA鑑定のかんづね」では、足利事件の菅家利和さん釈放以前に、鑑定精度の低さを告発していた。「日本海軍400時間の証言」も、軍令部で東京裁判での免罪のために周到な作戦が練られたなど、新史実を発掘。日常の報道ニュースでは知り得ない社会の諸側面が、入賞のドキュメンタリー番組から次つぎ見えてくる。

「塀の外で見つけた居場所」は、知的障害をもつ元受刑者の受け入れ事業を紹介し、「土に生きる」では老農民の生活哲学が語られ、「ひだまり」からは、地域の人びとの深い哀惜感が漂ってきた。

ドラマも今回は異色作が入賞。「JIN-仁-」はタイムスリップした人物と歴史的事実との交錯が面白い。「ミエルヒ」からは、地方の寂れた町で生きていくほかない人びとの哀切なしたたかさ、おかしみが鮮やかに伝わる。「津軽」生誕100年 太宰治と故郷」では、村田雄浩の抑えた演技と朗読が“津軽”を再現した。「深夜食堂」は深夜ドラマという新ジャンルを開拓した。「最後の赤紙配達人」からは戦争に関わった民間人の苦悩が伝わった。

今回は、久しぶりにバラエティ番組が復活。「桑田佳祐の音楽寅さん」と「秘密のケンミンSHOW」である。前者は風刺を生かした音楽バラエティとして、後者は年始のスペシャル番組では抜群の面白さで入賞。ともにBPOのバラエティ基準にも叶うのではないかな。

特別賞のシリーズ「日本と朝鮮半島2000年」は、昨年、放送開始50周年を迎えたNHK教育テレビの全番組に照らしても、構想といい取材といい、教養番組の白眉といえよう。個人賞の笑福亭鶴瓶は出演者としての傑出のみならず、構成、演出面への目配りの確かさをも含めて、文句なしの受賞である。

(藤久ミネ)



テレビ部門特別賞

## ETV特集

### 「シリーズ 日本と朝鮮半島2000年」

日本放送協会 (2009年4月26日～2010年1月31日放送)

弥生時代中期から近代まで2000年にわたる日韓交流史を、常に東アジア全体を俯瞰する視点から描ききった壮大な構想に敬意を表します。両国の学者が双方を相対的かつ理性的に考察する学説を提示し、韓国語会話に堪能な女性タレントの現地レポートがそれを実証するなど、構成にも行き届いた配慮がうかがえます。韓国併合100年とNHK教育テレビ50年とを、ともに深く回顧するのにふさわしい教養番組シリーズとして高く評価します。

テレビ部門個人賞

## 笑福亭鶴瓶

TBS「A-studio」CBC「スジナシ」NHK「鶴瓶の家族に乾杯」テレビ大阪「きらきらアフロ」の出演

「鶴瓶の家族に乾杯」「スジナシ」では、ぶっつけ本番ならではのハプニングの楽しさを番組の形に昇華させ、「A-studio」では、自分というフィルターを通してゲストの魅力を再構築してみせる。テレビ番組の既存の枠を壊すのではなく、その可能性を少しずつ広げる形で新たなスタイルを提案・実践し続ける姿勢に敬意を表します。「きらきらアフロ」でのフリートークなど、一貫して「人への興味」がにじむ温かな存在感も魅力です。

#### <プロフィール>

本名・駿河学。1951年大阪生まれ。京都産業大学中退。72年六代目笑福亭松鶴に入門。ラジオの深夜放送で若者から圧倒的な支持を集める。2003年春風亭小朝、立川志の輔らと「六人の会」を発足。落語会で全国を回るほか、年1回のトークライブ「鶴瓶噺」など、精力的に舞台に立ち続けている。テレビ、ラジオのレギュラーは週8本。07年「第58回NHK紅白歌合戦」では白組司会を務めた。ドラマ「タイガー&ドラゴン」「華麗なる一族」(TBS)、映画「ディア・ドクター」「おとうと」などに出演、役者としても独特の存在感を放つ。





## ■ラジオ部門■

ラジオ部門委員長 橋本 隆 副委員長 桜井聖子  
選奨委員 遠藤ふき子 木原 毅 黄 莉香 さらだたまこ 高瀬 毅 田代勝彦  
田中千恵 仲宇佐ゆり 三國 游 森忠 荘 山本 索

今期の応募は53作品であった。前年度より減少している。このところ漸減していて心配している。

### 生ワイド部門Ⅰ・Ⅱ

応募作品は13本。やはりパーソナリティの魅力（それはトークの楽しさ、面白さ）が大きな評価要素である。そして、対象を明確に意識しての作り方をしている番組が高い評価を受けた。ただ、地域の空気のようなものもあり、選考は難航した。最終的には「もっと聞いていたい」といった感覚的な評価で高かったものが入賞した。

### 音楽&エンタテインメント部門

応募は10本。純粋音楽系番組の応募はなく、ラジオと音楽の関係が少し変化しているのか。エンターテインメントの定義は難しく、ドキュメンタリーといってもよい作品もあった。エンターテインメントを広義に捉えテーマを大段に振りかぶらず、重いテーマを重く感じさせない作りをするのが今の日本の流れかもしれない。

### ドラマ部門

応募12本で昨年度より増えた。太宰治生誕100年にまつわる作品が2本あったことと、コミュニティ放送局（三角山放送局）が初めて応募してきたことが印象に残る。妙な言い方であるが三角山の作品は、コミュニティ局らしく（？）役者を公募していた。常識を覆すやり方だが、貴重な挑戦だと思う。ドラマに対するラジオ界の熱気は冷めていない。

### 報道・ドキュメンタリー部門

応募は17本。応募は微減したが今回も選考は長時間に及んだ。テーマも多様で現在の日本を表していると感じた。特に偶然かどうか「シベリア抑留」をテーマにした作品が2本あり、ともに訴えるものは強かった。忘れられた、あるいは忘れさせられた戦後問題としてようやく取り上げる時が来たのかと個人的には感慨深かった。

最終的には、これは忘れないでほしいという委員の思いの強かった作品が選ばれた。

（橋本 隆）



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

## やのひろみ

「PALPALワイド 本気？ラジ！」(南海放送) パーソナリティとして

心地よいリズムでしっかりとした滑舌のテンポよいおしゃべりがすばらしく、一つひとつの話題に反応する大きな笑い声が魅力です。強い好奇心、豊富な知識で予想できない話題の展開となり、聴く人を「やのひろみワールド」に引き込んでいく能力は、パーソナリティとしての理想に近いでしょう。その根底にある故郷の愛媛・松山を愛する強い心が多くの聴取者の共感を呼んでいます。見えないラジオからその素敵な人柄が伝わってきます。

### <プロフィール>

1975年愛媛県松山市生まれ。小学校から高校まで運動部に所属、スポーツ三昧の生活を送る。大学在学中は劇団に所属。イベント音響などの裏方を経て、ディレクターやパーソナリティ活動を開始。「愛媛に元気の種をまくパーソナリティ」として、テレビ・ラジオ・CM出演や企業のイメージキャラクターを務めるほか、県内の市町村が行う催事や、企業イベントなどの企画運営にも力を入れている。2010年5月18日に第二子を無事出産。

ラジオは「PALPALワイド 本気？ラジ!」「げつようパワフルレディオ らくやのお!」「奥道後ウィークリー」「やのひろみのよんでんエネエコ大作戦」(南海放送)。CM・広報出演は麒麟ビール松山支社、四国電力、JAC日本中古車査定センター、松山市公営企業局など。



## ■CM部門■

CM部門委員長 兼高聖雄 副委員長 諸橋泰樹  
選奨委員 入江たのし 鈴木ゆかり 田中典子 稗田政憲 丸茂 巧  
三日月まりこ 山川浩二

アメリカ金融危機に端を発する不況の影響は広告業界にも大きな波となって襲い、上期は本賞も応募数が減少した。さらにいわゆる「テレビ離れ」という根拠のない風評からテレビCMへの出稿を見直す広告主も多く、大きなクロスメディア化への流れの中で、ますます「テレビとはどのような媒体なのか」を考える機運が広告界では強くなった。

このことが広告表現にもあらわれてきているのが2009年の特徴といえるであろう。テレビにできることは何か、テレビならではのCMとはどのようなものか。放送局も広告制作者も広告主も腰を据えて考え始めたといえるかもしれない。そのためか実に多様な表現が寄せられる結果となった。

おなじみの白い犬や宇宙人、大人になったサザエさん一家などのお馴染みとなったシリーズでじっくりブランドを醸成するもの、古典ともいえるコマソン（CMソング）とダンスを使いながら、巧みなマーケティングにネットを活用したバイラル（\*）とを組み合わせているもの、そして一点突破の突き抜けたアイデアで差別化をはかるものまで、そのバラエティに富んだ手法は逆に景気が良いのではないかと思わせるほどである。

だがそこには、同じコストをかけるなら広告の機能をより先鋭化・戦略的にしたいという意思があるといえる。

巷間では通信と放送の融合だ、新たなメディアの拡大だと行政も財界もネット一色のようだが、そのアクティブなユーザーは、いまだキャズム（深い溝）を超えるか超えないかという割合ともいわれている。

新たな道具で騒ぐ前に、いま一度、私たちが育ててきたコミュニケーションはどのようなものだったか考えてみよう。そしてその力を検証してみよう。そんな声がCMからも、しっかり聞こえ始めた。そしてその声を人びとに語りかけるのは、やはりテレビなのだと思われた。

（兼高聖雄）

\*バイラル=テレビでは放映できないような過激な内容のCMで、ウェブ上に公開される。



## ■報道活動部門■

報道活動部門委員長 坂本 衛 副委員長 碓井広義  
選奨委員 麻生千晶 今村庸一 小田桐誠 上滝徹也 小林英美 鈴木典之  
田原茂行 露木 茂 山田健太

テレビ・ラジオ報道の多くは、単一の番組として完結しない。系列局の総力報道、地域局の連携報道、複数番組での調査報道、同一番組内の特集で回を重ねるスクープ報道やミニ・コーナーで細く長く伝える報道、イベントやサイトと連動するキャンペーン報道などだ。そこで“番組”でなく“活動”を対象に当部門がスタートして8年目。2009年度は応募27本のうち、別紙の6本が入賞した。

年間を通した印象は「テレビ・ラジオ報道は頑張っており、立派なものだ」との一言に尽きる。同時に、日々東京で、それもゴールデンタイムの番組ばかり見ていると、上の一言のように思う日がほとんどないことに、改めて嘆息せざるをえない。

応募作のテーマは多様で、とくに下期は、環境、医療、防災、地方行政・政治など当部門の“定番テーマ”に加え、自殺や若年ホームレスなど社会問題への果敢な挑戦、戦争の記憶の新たな掘り起こしが目についた。女性たちの番組づくり、独自の選挙報道や海外経済報道など、自らが続ける報道活動のあり方に対して評価を求める応募がいくつかあったことも特徴的だ。

たとえば鹿児島テレビ放送「ナマ・イキVOICE」は、女性の女性による女性のための番組1000本を20年間コツコツと作り続けてきた。伊那ケーブルテレビ「上伊那の戦争遺構」は、地域密着する小規模局の挑戦としてきわめて貴重だ。ケーブル局がここまでやるのだ。県域局や広域局も見習ってほしい。「いのちのラジオ」は久しぶりに接したラジオの大健闘。防災の日と言わず、頻繁に続けてほしい。

朝日放送「終わらない年金問題」、札幌テレビ放送「聴覚障害偽装報道」、北海道テレビ放送「議会ウォッチ」は、それぞれ手堅い作りでテレビ報道の良心を示した。各局の報道活動は、局と地域に応じて個性的で、強いヤル気を感じられた。賞を通じて放送局の報道活動を応援しつつ、放送ジャーナリズムの活性化を強く願っている。

(坂本 衛)



視聴者参加型のギャラクシー賞

# ギャラクシー賞マイベスト<sup>テレビ</sup>TV賞 グランプリ決定！

第4回マイベストTV賞グランプリ

## TBS 日曜劇場「JIN-仁-」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。日曜劇場「JIN-仁-」には、「医療ドラマと幕末ものを融合させた珍しいドラマ」「いままでになかったストーリー展開」「丁寧な作りで好感が持てる」「どの登場人物にも感情移入しやすい」「視聴率の高さと満足度が一致した作品」「徐々に来週が待ち遠しいと思わせるドラマ」といった投票者の声が多く寄せられた。タイムスリップという荒唐無稽な設定の中で、医療の原点を巧みに描きながらも、人間ドラマとしても見応えのある作品となり、視聴者から高く評価される形となった。

### 解説

2006年3月から募集したWeb会員は、5月24日現在で1751名。これに放送批評懇談会の正会員192名が加わった計1943名がグランプリ作品の投票にあたった。

グランプリは、投票によって決められたノミネート作（毎月上位3作品）36本、特別投票作品（深夜番組）3本、計39本の中から、最大3本までを投票するという方法で決められた。

74票を獲得しグランプリに選ばれたのは、TBSの日曜劇場「JIN-仁-」。“演者とスタッフの丁寧な作りが画面からうかがえる”“一度見てハマったという方が私の周りでは多い”といったコメントが寄せられるなど、数多くの投票者の支持を得る結果となった。

第2位は日本テレビの「嵐の宿題くん」。“ぐだぐだ感が心地よく、癒される番組”“深夜ならではの緩さと遊び心がいっぱい”と声を集め、嵐ファンの中でも最も人気の高い番組となった。

今回は「嵐の宿題くん」「アメトーーク!」「タモリ倶楽部」と深夜番組がベスト10内に3本入っており、ドラマだけでなく見応えのある娯楽番組がきちんと評価される形となった。

また、NHKのドラマがやはり3本入っており、質の高いドラマもしっかりと評価されている。これは投票したWeb会員が番組に対して的確な批評眼を持っていることを表しており、結果としてこの賞が視聴率を反映したような人気投票とは一線を画するものになっている。

なお、次年度も同様の方式によって年度のグランプリを決定するが、今年度の深夜番組と同様に、ニュース番組やバラエティ番組など長くレギュラーで放送されている作品をノミネート作に盛り込むなど、新しい試みも実施する予定である。



### 最終投票結果

第1位	日曜劇場「JIN ー仁ー」(TBS)	74票
第2位	嵐の宿題くん(日本テレビ)	44票
第3位	驚きの嵐!世紀の大実験!! 学者も予測不可能 SP&奇跡呼ぶ実験的生ライブ!!(日本テレビ)	30票
第3位	MR. BRAIN(TBS)	30票
第5位	金曜ドラマ「スマイル」(TBS)	29票
第6位	アメトーーク!(テレビ朝日)	24票
第6位	スペシャルドラマ「坂の上の雲」(NHK)	24票
第8位	ドラマスペシャル「白洲次郎」(NHK)	21票
第9位	大河ドラマ「龍馬伝」(NHK)	18票
第9位	タモリ倶楽部(テレビ朝日)	18票

### 参考

#### ★どんな賞?

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO(特定非営利活動法人)になったことを節目として創設されることになりました。NPOとして、放送と市民との橋渡しとなるような活動を強化したいと考えたからです。

放送局が送り出すたくさんの番組たち。果たして視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。

視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

視聴者がだれでも自由に参加できる本格的な番組賞が、日本に初めて誕生しました。

#### ★賞の本数、対象年度

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度(4月～翌年3月)ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

#### ★賞の仕組み

審査員は放送批評懇談会正会員、Web会員。選出は放送批評懇談会ホームページの投票でおこなう。

毎月の候補番組は放送批評懇談会選奨事業委員会テレビ部門が制定。

会員は毎月1回、IDとパスワードで投票ページに入室し、候補番組の中から3本まで選んで投票。

得票の多かった3本が月間ノミネート番組に選出される。(投票の経過・結果はWebで発表)

会員は毎年4月、12か月のあいだに選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組1本を選んで投票。この年間のベスト番組投票で、もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、<ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ>に選出される。



★Web会員とは？

放送批評懇談会ホームページを通して、ギャラクシー賞マイベストTV賞の選出に参加していただく会員。会員資格は視聴者であるということだけで、どなたでも参加可能です。Web会員には入会金や会費などはありません。入退会も随時です。

Web会員になるには、放送批評懇談会ホームページから申し込みます。Web会員として登録確定後、マイベストTV賞<投票>の入室に必要なパスワードを送ります。

★Web会員の特典

ギャラクシー賞マイベストTV賞投票の資格が与えられます。

投票を行ったWeb会員のうち、2人1組をギャラクシー賞贈賞式に招待。

**現況**

2010年5月24日現在

会員数＝放送批評懇談会正会員192名、Web会員1751名（合計1943名）

Web会員男女比

男性 399名（22.8%）

女性 1352名（77.2%）

Web会員年齢構成

10代 4.5%

20代 15.1%

30代 22.2%

40代 32.6%

50代 18.9%

60代 4.5%

70代 1.7%

80代 0.4%



# NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

JAPAN COUNCIL FOR BETTER RADIO AND TELEVISION

■創立 NPO放送批評懇談会=2005年5月2日(任意団体放送批評懇談会=1963年4月)

■会勢 正会員192名 維持会員129社

## ■役員

名誉会長=志賀信夫

理事長=音好宏 専務理事=隈部紀生(総務担当)

常務理事=小田桐誠(選奨事業委員長) 上滝徹也 藤田真文(企画事業委員長)

理事=石井彰 市村元 入江たのし 兼高聖雄(ギャラクシー賞CM部門委員長) 五井千鶴子

小林毅 坂本衛(ギャラクシー賞報道活動部門委員長) 嶋田親一 滝野俊一

丹羽美之(出版編集委員長) 橋本隆(ギャラクシー賞ラジオ部門委員長)

藤久ミネ(ギャラクシー賞テレビ部門委員長) 堀木卓也 山田健太 松尾羊一

監事=田代勝彦 原由美子 名誉会員=清水英夫

## ■目的および事業

広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

(1) 放送に関する書籍や雑誌の出版・編集事業 (2) 優れた放送に関する企画や作品の選奨・表彰事業 (3) 放送に関するセミナーやイベントの企画・開催事業 (4) 放送に関する調査・研究事業 (5) 放送に関する団体や機関への提言事業 (6) 視聴者、放送関係者との交流事業 (7) 放送に関する目的を同じくする国内外の団体等との連携事業 (8) その他目的を達成するために必要な事業

## ■主な活動

**放送の専門誌 [GALAC/ぎゃらく] の編集・発行**

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組を様々な角度から問題を取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。

**日本を代表する番組賞 [ギャラクシー賞] の選定・表彰**

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の四部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

**視聴者参加型 [ギャラクシー賞マイベストTV賞] の運営・表彰**

2006年、本会がNPOになったのを記念して誕生。視聴者が誰でも自由に参加できるテレビの賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間1本を選出。初のグランプリはNHK「ハゲタカ」に贈られた。

**[放懇シンポジウム/放懇セミナー] の企画・開催**

激変する放送事情に対応すべく、その時々に関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。